

第9回千葉県食品等安全・安心協議会（概要）

- I 日 時 平成22年7月30日（金）午後2時から午後4時
- II 場 所 県庁中庁舎3階 第1会議室
- III 出席者 齋藤委員、渡辺委員、石橋委員、長田委員、薫田委員、内山委員、
岩村委員、平山委員、天野委員、松本委員、畑委員、篠塚委員、
北村委員、羽田委員
- IV 議 事
- (1) 正・副会長の選任について
 - (2) 平成21年度リスクコミュニケーション実施結果について
 - (3) 食の安全・安心レポートの発行状況について
 - (4) 食品等の安全・安心確保に関する基本方針に係る平成21年度事業・
対策等実施結果について
 - (5) 平成22年度リスクコミュニケーションの実施計画について
 - (6) その他
- V 会議要旨
- 傍聴者1名

【議事】

(1) 正・副会長の選任について

会長に羽田委員、副会長に北村委員が選任された。

就任あいさつ

○ 羽田会長

千葉大学の羽田でございます。前回につづき会長を務めさせていただくことになりましたので、よろしくお願ひします。

食に関してはいろいろな問題が噴出してあります。この協議会の意義は非常に大きいと思っておりますので、活発な議論をよろしくお願ひします。

○ 北村副会長

NPO法人食品保健科学情報交流協議会の北村でございます。

前期に引き続きまして、副会長を務めさせていただきます。

私はリスクコミュニケーションを中心とする活動を行っております。

この協議会におきましても、生産者、消費者、行政、学識経験者が一同に介していろいろな意見を出すということは非常に大切だと思ひます。そのような中で、協議会が円滑に進むよう務めて行きたいと思ひます。

(2) 平成21年度リスクコミュニケーション実施結果について

事務局から資料に基づき報告

質疑応答

○ 北村副会長

昨年度、3回のリスクコミュニケーションについてコーディネーターをやらせていただきました。リスクコミュニケーションに参加された方は、その中でいろんな意見を聞き、参考にされることと思います。ただ、事務局に苦言を申しますと、参加者が限られてしまっており、呼びかけをもっとうまくやっていただけると、さらに多くの方が参加でき、食の安全・安心の問題についての広がりが出てくるのではないかと思います。

○ 畑委員

アンケートを見た時に、主婦の参加が少ないと思いました。子供がいると参加する機会を作るのが難しいのではないのでしょうか。近所のスーパー、学校や幼稚園などで開催していただくともっと参加者が増えると思います。

○ 羽田会長

開催の時間帯は、どうですか。

○ 畑委員

近所で、平日の昼間なら参加しやすいです。

○ 事務局

ご意見ありがとうございました。

大規模なリスクコミュニケーションについては、開催案内等の工夫をしていきたいと思っております。また、委員からご指摘のありました、より近所で開催するいわゆるミニリスクコミュニケーションについては、リスクコミュニケーションとはうたっておりませんが、出前講座というかたちで対応をしております。ご要望がありました町内会や自治会などに衛生指導課や健康福祉センター（保健所）の職員が出向いて行き講座を開催し、身近なお話しをさせていただいております。

今年度も多くの要望があり、数回の出前講座の開催を予定しております。

○ 羽田会長

何人ぐらいあつまれば、出前講座を開催してもらえるのでしょうか。

○ 事務局

参加人数が10名程度でも行っております。

- 羽田会長
申し込みは、どこにすればよいのですか。
- 事務局
各健康福祉センター（保健所）に聞いていただければわかるようになっております。今は、事務局（衛生指導課）でもとりまとめを行っております。詳しくは、衛生指導課のホームページをご覧ください。
- 羽田会長
申し込みば対応していただけるのですね。
- 事務局
今までにお断りをした事例は、ありません。
日程と、お話しする内容が合えば対応をいたします。
- 羽田会長
出前講座の会場は、どうするのですか。
- 事務局
会場は、申し込みをされた方に用意をしていただきます。
よくあるパターンでは、学校の父兄会などの学校行事の一環として開催することがあります。したがって、厳密なリスクコミュニケーションとは少し違うとは思いますが、身近な食の問題についての情報を提供しております。
- 齋藤委員
先ほど、昨年度のリスクコミュニケーションに主婦層の参加者が少ないとお話がありました。私も昨年度、3回ありましたリスクコミュニケーションに参加したいと思っておりましたが、千葉県食生活改善協議会の行事と重なってしまい、参加できずにとっても残念に思っております。先ほど、事務局から出前講座があるということをお聞きいたしましたので、是非とも講師の派遣をお願いしたいと思います。私達が開催している栄養改善大会という大きな大会がございます。その中で、キャンピロバクターなどの食中毒菌のお話をしていただけると非常にありがたいのですが。
- 松本委員
昨年 of リスクコミュニケーションにも参加させていただきましたが、生産者、消費者、学識経験者などが参加して、情報を共有することができたと思えました。その中で、生産現場や工場内のスライドを見せていただきましたが、すばらしく綺麗で、また衛生的であり、営業者の方が食の安全・安心にここまで気を使っていることに安心しました。一方、消費者にとって難しい言葉などについては、質問もさせていただきますし

た。それぞれの専門家が同じ場所に一同に介して、意見や情報を交換し、理解する中で、食の安全・安心に対する知識や考え方に厚みが増してくるような感覚を覚えました。これがリスクコミュニケーションなのだと思います。しかし、先ほどお話しがありました10人程度のミニリスクコミュニケーションでは、果たして同じ感動を持つことができるのが疑問です。

前回は委員を務めさせていただきましたが、その中で感動したことをより多くの方に展開していきたいと考え、今回も委員に応募をいたしました。

○ 北村副会長

昨年度のリスクコミュニケーションは、意見交換会というかたちで開催をしております。リスクコミュニケーションは、松本委員の発言のとおり、あくまでも情報の共有であり、そのためには形式にこだわらないことが最も大切なことだと思います。ある問題に対して情報をきちんと伝えて、きちんと質問をする。そのやり取りの中で、疑問や不安を感じている人と、情報を持っている人をどのように結び付けるかが一番大切なことだと思います。参加人数の大小には関係ありません。疑問が解決しなければ、もう一度元に話を戻して考えてみるのがリスクコミュニケーションの原則です。参加人数の多少に係わらず疑問や不安を感じている人が素直に発言して、それに答える。また、答えられないものは何かということを確認にしてゆくことがリスクコミュニケーションでないかと思っています。

○ 石橋委員

今、話をされておりますリスクコミュニケーションは行政主導型のものだと思います。本日のメンバーを見ますと、生産者、消費者、流通、学識経験者など、いろいろな方が参加されております。オープンで議論する部分とクローズドで議論する部分があると思いますが、是非、このメンバーの中でうまく議論ができればよいと思います。

私どもは生産者の団体として生協さんと実務部分で取引を行っております。残留農薬の問題については、県の農林水産部局の方にも入っていただき議論を行っております。食品の安全性については、生産者としての努力をアピールするような活動も行っております。衛生部局の方も生産と消費をつなぐ部分に入ってきていただき、リスクコミュニケーションを進めていただきたいと思います。

○ 事務局

千葉県食品等の安全・安心の確保に関する条例は、生産から消費まで

の一連の中で総合的な施策を構築するという事となっております。食の安全・安心に係る部局といたしましては、県庁内7部局21課が施策を進めているところです。先ほど、石橋委員からお話がありました、衛生部局の職員も生産者との意見交換に参加をしてほしいということですが、衛生部局、農林部局などが別々に施策を実施することはありません。

なお、議題の3は、それぞれの部局がどのような施策を行っているかを一覧表としたものです。

(3) 食の安全・安心レポートの発行状況について

事務局から資料に基づき報告

質疑応答

○ 篠崎委員

今年度、2回の発行テーマは決まっていますか。

やはり要望が多いのは、食中毒ですか。

○ 事務局

今年度のテーマは、まだ決まっておりません。要望が多いテーマは、やはり食中毒に関するものが多くなっております。これは県民の皆さんが、最も身近な健康被害として食中毒を捉えられているからではないでしょうか。食中毒に関する情報は、行政側も特に注意喚起が必要なテーマであると認識しておりますので、食中毒に関する情報を発信する回数が増えてまいります。また、食中毒は原因物質も多いため、それぞれに特集を組むとそれだけでも食中毒をテーマとするレポートの発行回数も多くなってまいります。

○ 篠崎委員

主にどういった方を対象に配布しているのですか。

また、配布する年齢層はどの様な方ですか。

○ 事務局

特に、配布する年齢層は決まっておりません。

健康福祉センター（保健所）や県民センターなど、一般の方が目に触れやすい場所に置かせていただいております。また、各自治体などから要望がありましたら、いつでも配布できるように事務局には在庫を確保しております。

なお、リスクコミュニケーションの会場などにおいても配布しております。

- 羽田会長
食の安全・安心レポートは、ホームページからダウンロードできますか。
- 事務局
衛生指導課のホームページからダウンロードができます。また、当課ではメールマガジンも発行しております。登録していただきますと食の安全・安心の情報をメールにて発信しております。
- 石橋委員
ノロウイルスについての情報も発信していただければと思います。
- 事務局
ノロウイルスを取り上げた号もあり、好評をいただいております。また、時点修正を行い、改訂版の作成もしております。

(4) 食品等の安全・安心確保に関する基本方針に係る平成21年度事業・対策等実施結果について

事務局から資料に基づき報告
質疑応答

- 羽田会長
実施結果につきましてはボリュームがありますので、質問等がありましたら担当部局に問い合わせをお願いします。
- 北村副会長
昨年消費者庁ができ、食品の安全についてもいろいろと違った角度の問題がずいぶん出されたと思います。それについて変わったことはありますか。例えば、トランス脂肪酸のように、日本では問題が発生していない事例で、将来的に日本でも問題が起こるかもしれないから考えてみようとするものがありました。何か新しい取り組みなどはありますか。
- 事務局
消費者庁ができて、厚生労働省と農林水産省の連携整備などができつつある状況です。また、情報共有の面では、システム的に進んできておりますが、まだまだ整備が整っていない部分も多いと思います。
トランス脂肪酸の件については、そろそろ議論が必要という話はあると聞いておりますが、具体的に議論を行うところまでには至っていないと聞いております。

(5) 平成22年度のリスクコミュニケーションの実施計画について

事務局から資料に基づき報告

質疑応答

○ 羽田会長

今までのリスクコミュニケーションのように会場に来る人を待っているよりは、小学校や大学に出向いて、食の安全・安心に関するリスクコミュニケーションを行っていただき、子供が家に帰って子供の言葉で家族に伝えてもらうことは非常に良いことだと思います。大賛成です。タバコの問題も、子供が学校でタバコの害について勉強し、家にもち帰って、その内容を親に話をしたところ親がタバコをやめたと言う話も聞いております。

○ 北村副会長

先ほど申し上げましたとおり、リスクコミュニケーションにはいろいろなかたちがあります。その年代に受け入れやすいものは、どのようなものか、また、食の安全、食育の問題も含めて広く子供の頃からやっていくことは大切ではないかと考えております。

○ 畑委員

大学生は専門の勉強をしている方々であるとのことですので、将来、その専門知識を活かして関連の仕事に着かれることでしょうか、今知っておかなくてはならない知識を吸収してもらうことはいいことだと思います。また、小学生達は、その日あったことを親に話してくれるでしょうから広がり期待できるのではないのでしょうか。

○ 松本委員

この実施計画を見せてもらおうと知識はつくと思いますが、リスクコミュニケーションで大切な事は、考える力が大事だと思います。遊びながら知識を与えることは、いいことだと思いますが、考える力を育てる工夫のようなものが盛り込まれると良いのではないのでしょうか。

○ 羽田会長

まずはクイズに答えさせ、その後いろいろな意見を述べさせるなどの場面があればよいということですか。

○ 松本委員

そうです。意見を述べるような場面があればよいと思います。

○ 北村副会長

小学生のリスクコミュニケーションを担当する県の職員が、リスクコミュニケーションにどう膨らみを持たせて、いかに解説し、子供からでくる素直な疑問に対してどう答えられるか、さらに、それが食の安全につながるのかを期待しています。

先ほど事務局から、リスクコミュニケーターが日本では足りないのだ

という話がありました。ある意味では、千葉県としてリスクコミュニケーターを育てる意味も含まれると思います。県の担当職員が小学生に対して、食の安全や考える力をフォローしてあげられるのかなどの課題は残ると思います。がんばってください。

○ 薫田委員

平成22年度はこの計画で進んで行くとのことですが、よく考えられた手法でやっていただければと思います。問題があれば、平成23年度の協議会で結果を踏まえて検討できればと思います。

○ 内山委員

今回初めて委員を務めさせていただきます。

食の安全・安心レポートですが、とてもよくできていると思いますが、ほとんど目にしたことがありません。良くできているので、学校関係にも配布していただければよいと思います。私も子供がおります。学校から保健便りなどをもってくるのですが、その中に食中毒予防などの食に関する記述があると、家庭への話題の提供としてもよいと思いますし、皆さんの興味もひくのではないのでしょうか。また、小学生リスクミですが、私も千産千消の関係で中学生の調理実習に参加させていただいたことがあります。中学生は、非常に食に関して興味を持っておりましたので、中学生に対してもこのような取り組みがあることを伝えられたらいいなと思いました。

○ 平山委員

リスクコミュニケーションのテーマについては、そのときどきの話題を適宜取り上げていただきたい。また現在、食中毒注意報・警報が発令されております。こういったことも一つの話題になると思います。一般的にはまだ知られていないので、テーマとして取り上げられたらいいと思います。

○ 天野委員

今年度のリスクコミュニケーションについてですが、昨年までは参加される方の年齢層が高かったので、もっと若い方に参加していただきたいと思っておりましたので、大学生や小学生を対象に実施することは大賛成です。しかし、大学生は専門性というところがありますが、小学生については気になることがあります。私どもも食品の企業として出前授業を行っております。醤油についての講座を小学生対象にやっておりますが、「食は楽しい。」という方向で話を進めていただきたい。あまりネガティブで怖いという印象を与えて終わってしまうことは、賛成できません。食べることは楽しくてとてもいいものだ。また、家族団欒が

広がるなど、ハッピーエンドで終わらないといけないと思います。その点に気をつけてやっていただきたい。

○ 羽田会長

私も、昨日食育の委員会に出席したのですが、そこでも、食べることは、「楽しくて」、「おいしくて」ということから始めないと縮んでしまうとのことがありました。楽しみながらリスクも知るという感じでやるのが一番良いと思います。健康作りも一緒に、メタボ対策で健康の害ばかり言われてもなかなか先に進まないというのが本当かと思いません。大変貴重なご意見だったと思います。

○ 渡辺委員

「食中毒」という言葉を見るのもいやです。しかし、世の中に食中毒が無いわけではないので、私たちは食中毒の知識を持っていなければならないと思います。

食の安全・安心という点で、もっと自給率を高めるということも含めてやっていかないといけないのではないのでしょうか。何かあった時には、日本人は餓死してしまう、それくらい輸入に頼っている状況です。それを踏まえてのリスクコミュニケーションも必要ではないのでしょうか。

私も小学生、中学生と接する機会が多いのですが、一緒に給食を食べることもあります。その点ではあまり怖い怖いというのだけを前面に出して話をするのではなく、これもいい、あれもいいという中で話をしたい。

(6) その他

○ 事務局

特に、議題以外で説明事項はございません。

以上